

# 日本農業の担い手と 生産構造の特徴

## 5) 集落営農の発展と課題

# 1 集落が注目された経緯

- 農業政策は、1970年代後半には地域主義への転換がはかられたといわれる 例 地域農政特別対策事業
- 地域主義への転換は、トップ・ダウン的な農政が行き詰まったことと深く関係している。地方分権化を通じて地域の責任で諸問題の解決をめざすのが現実的と判断
- 農業集落への注目（農村社会がもつ調整力と圧力を利用）
  - 1) 水田転作を定着させる（村落社会を通じて）。転作地の団地化（分散零細錯圃の限界）
  - 2) 農地の流動化（賃貸借による）を集落単位で進める

農業集落(ムラ)を政策実施の受け皿として  
利用する方向

# 集落がもつ機能に着目

## ■ 集落段階で実施される生産機能

土地利用や生産の組織化；地域農業の行方を定める  
生産の担い手を地域として確保。農地を集落として有効利用  
集落がもつ集団的な「地域資源管理」機能を利用  
(詳しくは次のスライドを参照)

## ■ ムラは、戦後の農地改革、農業と農村の近代化をめざした農業基本法では微妙な立場にあった

「自立する農家」、「中核的農家」の育成を目指してきた施策では、ムラ(農業集落)は無視された。その軌道修正が試行錯誤とともに始まった……

- \* 集落は、食料・農業・農村基本法のなかで再び登場
- \* 現在もこの流れは変わらない

# 経済組織、資源管理組織としての 集落

## ■ 経済組織的な性格

さまざまな共同労働や調整労働という労働調整機能  
かつては「ゆい」、「手間替え」などが存在していた  
⇒ 集落の「くくり方」は絶えず変化

## ■ 地域資源管理組織的な性格

農場に付随した農業施設, 水利施設, 山林, 農道管理作業  
などの管理を一体的に行う

## ■ 日本農業の構造を集落からとらえると……

封建時代に成立した水利用体系, それに規定される農業構  
造の上に, 近代的な農業経営が成立している、という特殊性  
(長濱健一郎)

# 生活組織、規範組織としての 集落(ムラ)

## ■生活組織

伝統的な相互扶助や文化活動が行われてきた

## ■規範組織

ムラの結合度と深く関わる組織。生産や生活全般におよび  
構成員の行動を律する**掟**をもつ

\*戦後農政は集落を無視するところから出発した  
農村民主化の観点を強調する一方、困った時には集落  
を利用した

事例 牽制と強制

食料不足時代に米穀の供出

稲作の減反 (集落を単位に減反を割当)

事例 相互扶助

集落営農組織の推進

中山間地域等直接支払のもとでは、「集落協定」の  
締結が行われる (ファクトブック p.27)

# 地域農業振興に果たす集落の役割

## ■ 地域農業振興の立場から集落を重視

- 1) 有機農業, 環境保全型農業などへの取り組み
- 2) 地域資源管理システムの維持(水利、里山等)
- 3) 産直・直接販売などへの取り組み、地産地消などへの取り組み(既存の大型流通に対して)
- 4) 6次産業化、農商工連携などの取り組み  
高齢者・女性を含めた雇用創出と地域資源の活用
- 5) 地域農業・農村がもつさまざまな外部経済効果に着目した取り組み  
グリーンツーリズム、農業体験、農家レストラン、農家民泊  
etc.

# 集落に期待されてきたが

■日本の農業のあり方, 農法, 担い手, 生産と生活など、幅広い視点から検討

■地域がもつ個性の発揮による生き残りとは分野との連携

○「限界集落」など、集落の維持が困難な地域が増加

○担い手の高齢化や過疎化が進み、集落営農の形を、絶えず、工夫しながら発展させていく必要が増している

## 2 集落営農の定義

■集落内の農家(農業経営)が農業生産を共同で行う営農地域の実情に応じて、

- ①転作田の団地化、②共同購入した機械の共同利用、
- ③中心的な担い手に主な作業を委託し、生産から販売まで共同するなど、形態や取り組みは多様である

■集落営農が担い手として認められる条件

- ①農用地の利用集積目標、②規約の作成、③共同販売経理(経理の一元化)、④主たる従事者の所得目標、⑤法人化計画の作成が必要

集落営農法人が広く普及



# 集落営農の新たな役割

- 農業集落における営農形態のうち、集落など地縁的にまとまりのある一定の地域内の農家が農業生産活動等を共同して行う営農形態や取組の総称
- 集落営農の役割  
構造改革の限界を考慮し、企業的経営の発展だけではカバーしきれない分野を担当
- 集落型経営  
事業経営体として集落営農法人の発展を展望

集落は単一とは限らない。複数の集落が連携した形態が増えている

# 二者択一ではない、担い手の選択

## ■ 様々なタイプの集落営農が発展

個別経営か集落営農かという二者択一ではない

## ■ 集落営農の将来をめぐる意見

1) 集落営農を推進するが、最終的には借地型経営を育成し、その発展を重視する見解(大型農業経営体の発展)

2) 集落営農の活動そのものを重視する見解

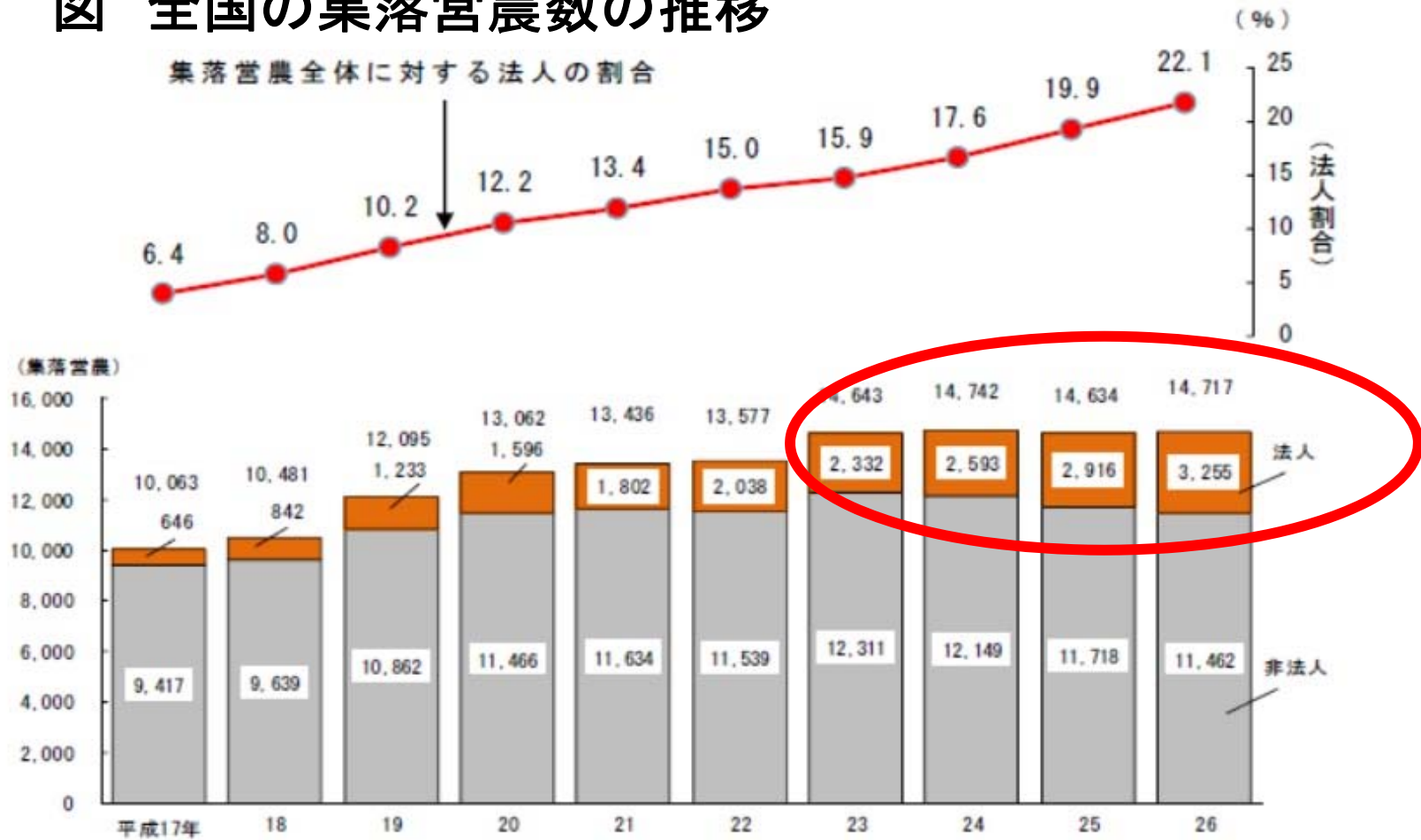
(平林光幸の整理, 2009)

## ■ 担い手を育成するのが困難な地域、高齢化・兼業化がいちじるしい地域などでは、集落営農への期待が高い

地域農業の担い手として位置付けられる

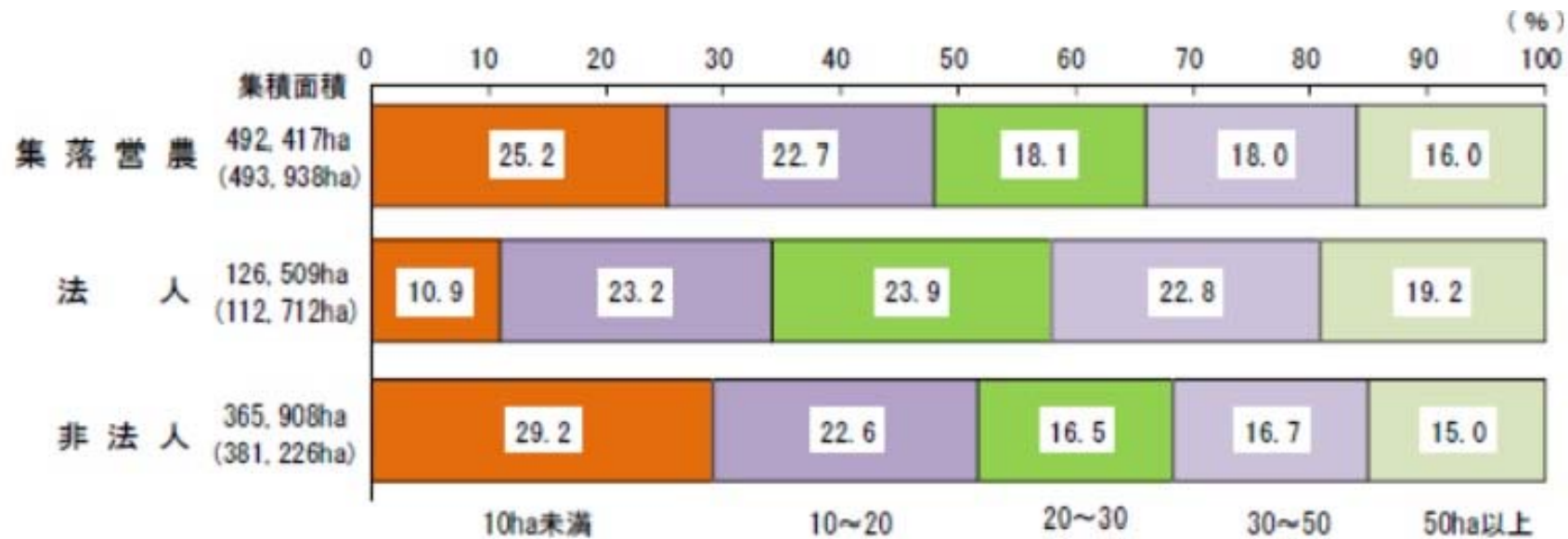
# 3 全国の動向

## 図 全国の集落営農数の推移



注：1 平成18年までは5月1日現在、平成19年以降は2月1日現在の結果である。  
 2 平成24年調査より、東日本大震災の影響で営農活動を休止している宮城県及び福島県の集落営農については、調査結果に含めていない。

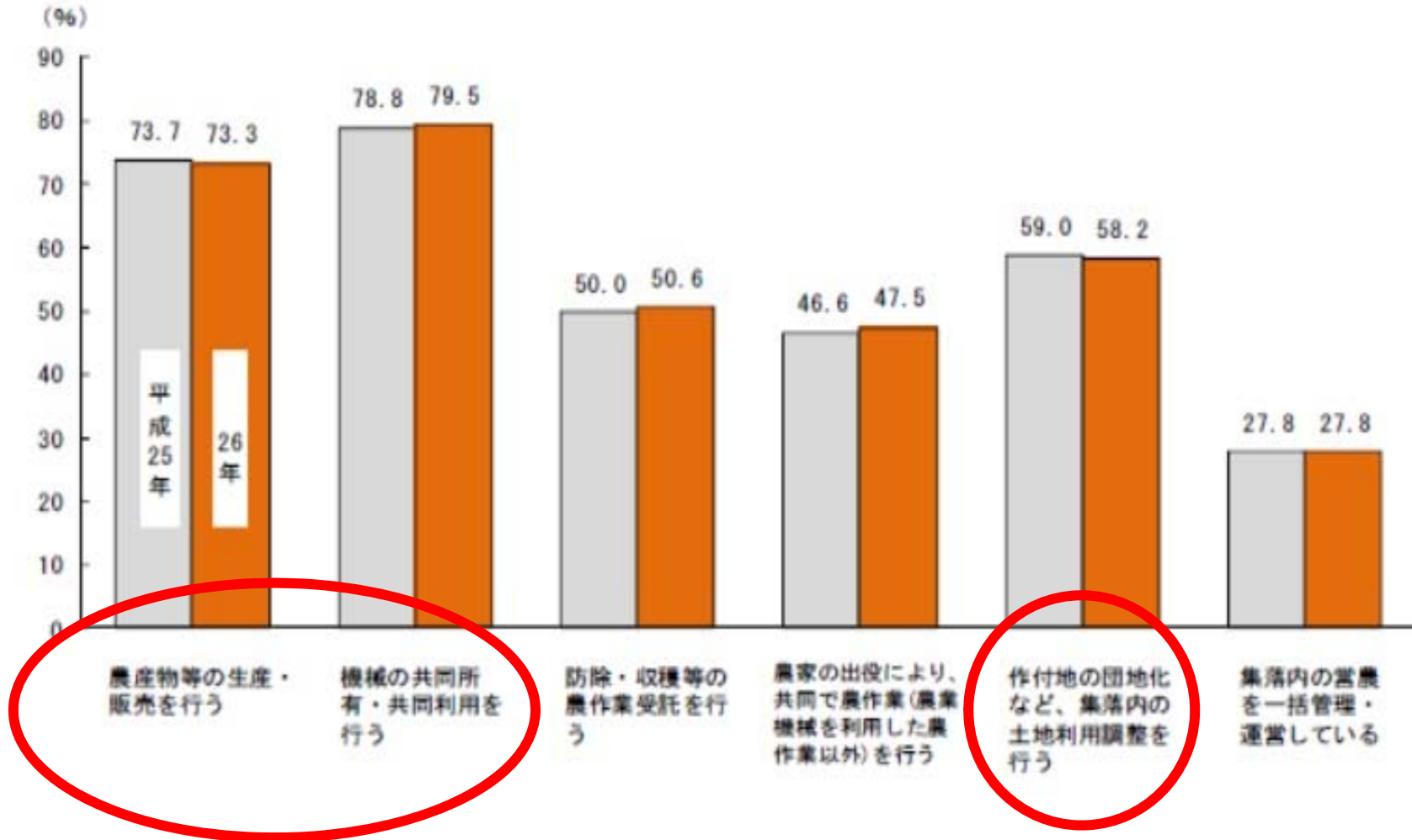
図 集落営農法人数の規模別分布

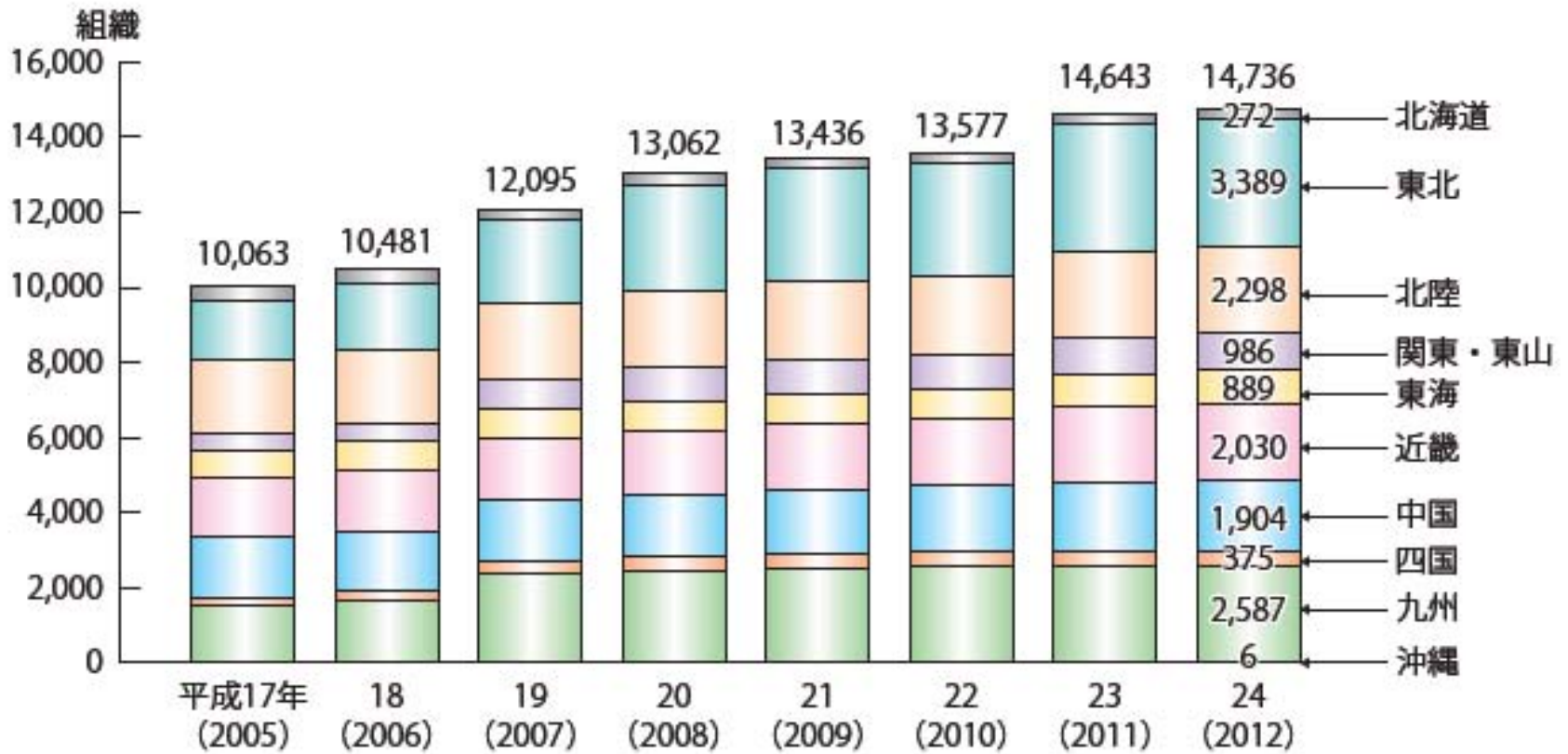


注：( ) 内の数値は、平成 25 年集積面積。

法人の集積規模が大きいのが特徴。  
20ha以上の割合が高い

図 全国の集落営農法人の活動別に見た割合





資料：農林水産省「集落営農実態調査」

注：1) 平成18 (2006) 年以前は5月1日現在、平成19 (2007) 年以降は2月1日現在の数値

2) 平成24 (2012) 年は、東日本大震災の影響により、宮城県及び福島県の休止・不明の組織は含めていない。

### 図 農業地域別集落営農数の推移

- 全国的に集落営農が増えているが、地域によって違いがある。内地府県とは農業構造が違う北海道ではその数は少ない
- その他の地域では全体的に増えている

## 4 広島県の集落営農組織の背景

- 個人の担い手が減少した中山間地域等を中心に数多く設立  
農地の維持、地域住民の暮らしを守るという生活防衛的な  
観点から設立された経緯をもつ組織が多いのが特徴
- 広域農協合併が進み、支所が廃止になった地域が増えた  
農協の事業部門の統廃合によって、地域農業の継続が危  
ぶまれる状況下で、農協を代替するために設立された営農  
組織も多い
- これまで取り組んできた地域農業振興、地域活性化などの  
延長として、集落営農組織を立ち上げた地域が散見  
6次産業化、コミュニティービジネスなど幅広い活動を担う組  
織として位置づける動き

# 広島県の農業施策：担い手について

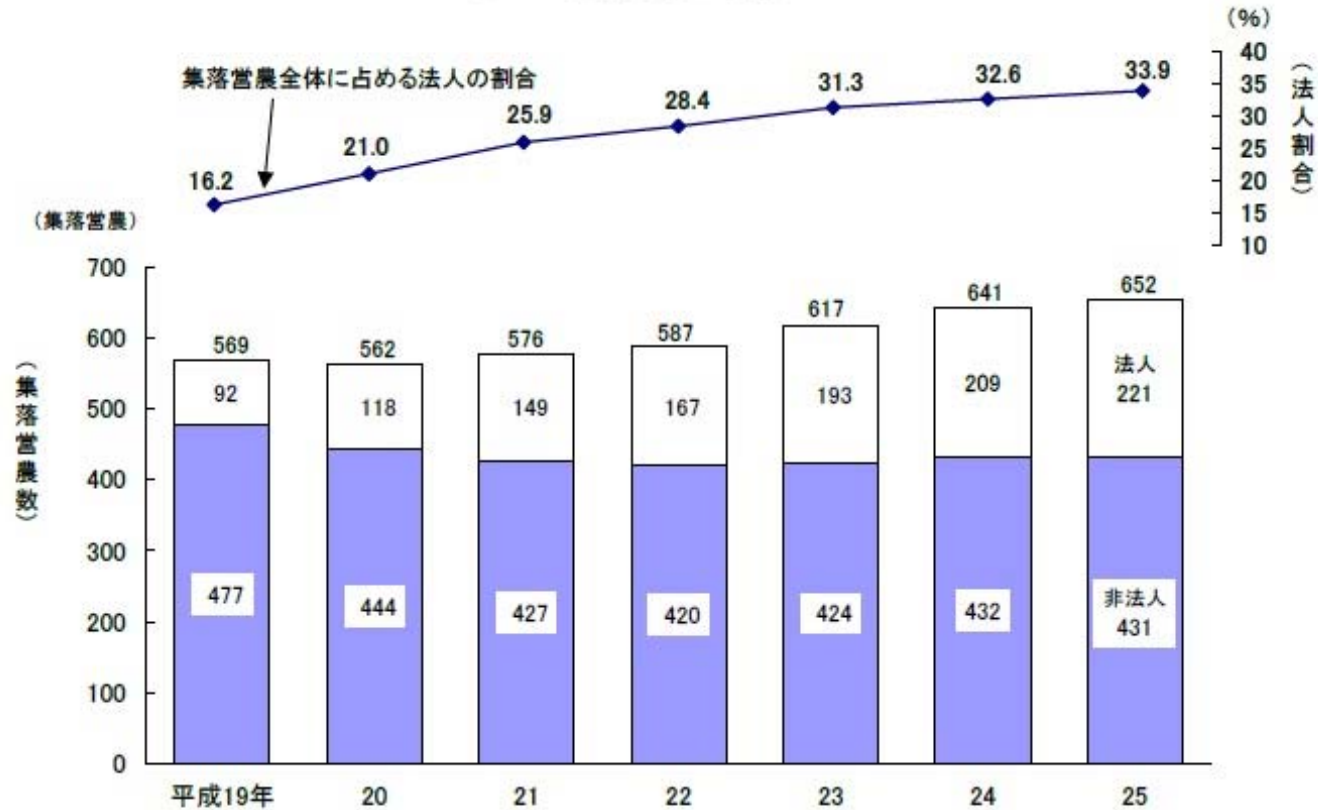
## 担い手＝法人経営（特に集落型農業生産法人）

- 「農業構造改革の核となる**集落農場型農業生産法人の設立を加速する**」（広島県新農林水産業・農山漁村活性化行動計画2006）ことを重点にする
- 農業の担い手要件（2006～）
  1. **法人経営**（集落型農業生産法人、農業外企業、その他の農業法人を含む一般法人）であること
  2. 農業所得500万円以上の個別経営，企業的個別経営体

経過：広島県は、中山間地域が広く、生産と流通の条件不利性が顕著。市場原理導入に対応するため、集落型農業生産法人への重点的・集中的支援を行っている。（吉田絵美 2009）



## 図 集落営農数の推移



注：「集落営農」とは、「集落」を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される営農をいいます。

○集落営農数の増え方よりも、法人の増え方に注目

# 集落営農を中心にした担い手育成

## 広島県：集落営農法人の先進地

### ■ 集落営農法人の育成が急速に進みつつある

広島県は、施策の重点を集落営農組織の育成とその法人化においてきた。法人組織に支援を集中する姿勢をとってきた

### ■ 「選択と集中」を明確に規定

認定農業者と集落営農法人を「担い手」とすると、成長を目指す農業経営の排除につながっていない。「担い手」を分厚くする効果が認められる 小田切徳美(2005)

### ■ 現在は、「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」(H22年策定)

# 集落法人位置図及び市町毎の耕地等カバー率

【設立年度】

- ~H17
- H18
- H19
- H20
- H21
- H22
- H23
- H24
- H25



地域的な偏りがみられる。

【市町水田カバー率】

平成25年9月22日現在 単位：ha

表 広島県の集落  
営農法人の分布  
状況

市町名	集落法人		耕地		水田	
	法人数	集積面積	面積	カバー率	面積	カバー率
広島市	2	46	2,940	1.6%	2,210	2.1%
呉市	1	5	2,600	0.2%	689	0.0%
竹原市	1	18	658	2.7%	388	4.5%
三原市	28	640	4,590	13.9%	3,800	16.8%
尾道市	7	95	3,380	2.8%	853	11.0%
福山市	9	46	4,100	1.1%	2,430	1.8%
府中市	7	112	1,000	11.2%	734	15.3%
三次市	31	941	5,980	15.7%	5,270	17.9%
庄原市	23	526	7,290	7.2%	6,100	8.6%
大竹市	0	0	145	0.0%	80	0.0%
東広島市	28	850	7,490	11.3%	6,680	12.7%
廿日市市	2	61	869	7.0%	659	9.3%
安芸高田市	15	493	4,420	11.1%	3,870	12.7%
江田島市	1	2	689	0.3%	94	2.6%
府中町	0	0	8	0.0%	2	0.0%
海田町	0	0	63	0.0%	30	0.0%
熊野町	0	0	256	0.0%	223	0.0%
坂町	0	0	34	0.0%	7	0.0%
安芸太田町	2	71	592	12.1%	447	16.0%
北広島町	28	803	3,790	21.2%	3,430	23.4%
大崎上島町	2	9	770	1.1%	42	0.0%
世羅町	35	781	3,400	23.0%	2,820	27.7%
神石高原町	13	228	2,220	10.3%	1,410	16.1%
合計	235	5,725	57,300	10.0%	42,300	13.5%

色	区分
■	15.0%以上
▨	10.0~15.0%
▧	5.0~10.0%
▩	5.0%未満
□	0.0%

水田面積：H24「耕地面積調査」の田耕地面積

耕地面積：H24「耕地面積調査」の耕地面積

法人数・集積面積：農業担い手支援課調べ

※ □のマークは水稲作付の無い法人

図 集落営農法人数の規模別分布(広島県)

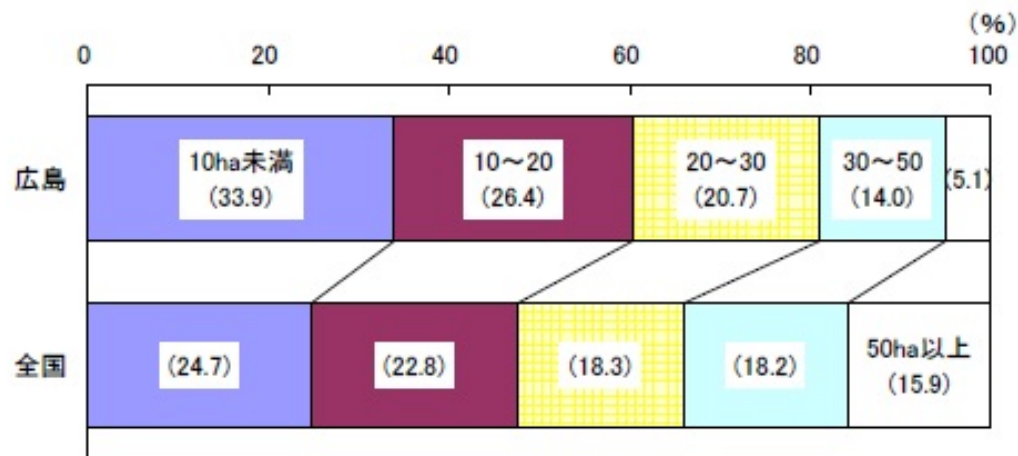
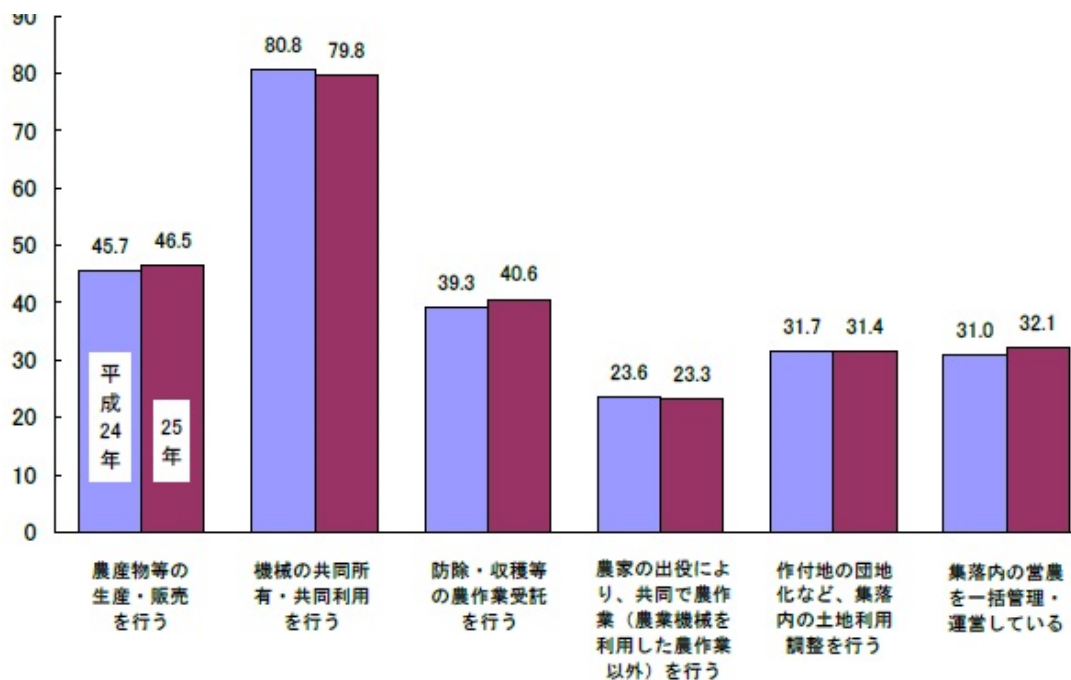
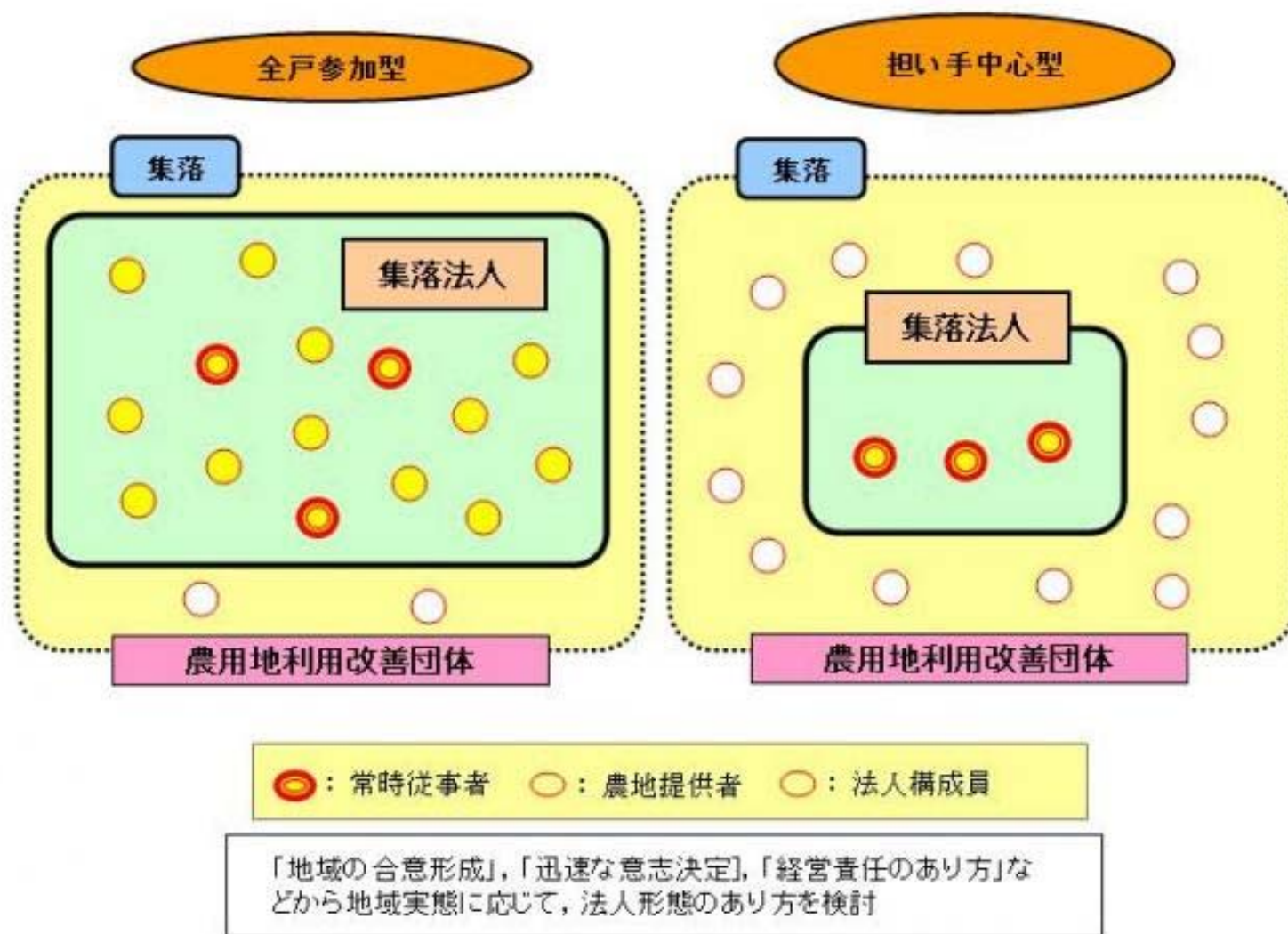


図 全国の集落営農法人の活動別にみた割合(広島県)



## 図 集落営農法人の二つのタイプ



(資料) <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/81/1170901848611.html>

## 図 広島県の集落営農組織の発展形態(目標)

区分 (販売額 経営面積 常時従事者数)	経営内容
<p>ビジネス拡大型 集落法人 (12千万円以上, 40ha, 3人以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地・しくみの核となる集落法人</li> <li>・農業生産活動に加え、流通、販売の垂直方向への経営展開を実現</li> </ul>
<p>経営発展型 集落法人 (8千万円, 35ha, 2~3人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻依存体質から脱却</li> <li>・農業生産活動において自立した経営</li> <li>・産地を支える大規模栽培経営</li> </ul>
<p>地域貢献型 集落法人 (2.5~5千万円, 25~30ha, 0~1人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保全を主目的として活動</li> <li>・経営資源のほとんどは集落内調達</li> <li>・一部高収益作物等を導入</li> </ul>

(資料) 広島県のHPより

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/1611.pdf>



内ファーム：集団で大型機械化体系を実現





内地区の基盤整備された水田



内ファームのライス・センター

設問 内、西田口等の事例をもとに、集落営農組織がもつ経済的メリット3つについて詳しく説明し、地域農業に及ぼす効果を説明しないさい。

## 経済的メリット

- 1) 機械共同利用による経費節減
- 2) 不耕作地、耕作放棄地の有効利用
- 3) 多角化への試み（栽培作物を増やす、6次産業化、等）

集落営農組織がもつ限界とは？

## 演習問題

1)強い農業経営を作るために、認定農業者の育成を進めてきた。担い手がどのような施策を活用できるかを以下の文献を手がかりに調べてみなさい。

<http://www.nefam.jp/doc/sesaku-hdbk.pdf>

2)広島県は集落営農に取り組む地域が多い。その背景について調べなさい。また、設立に地域的な偏りがあるのはなぜか。

3)集落営農組織(法人)の活動を担う人々の高齢化が進んでいる。今後の組織・活動をどのようにすればよいと考えられるか。